

# 学生、または教員間で高い評価を受けた授業の実践

坂田 浩<sup>1)</sup> 余郷裕次<sup>2)</sup> 錦織浩文<sup>3)</sup>

- 1) 徳島大学
- 2) 鳴門教育大学
- 3) 阿南工業高等専門学校

## 本ラウンドテーブルの趣旨

徳島県下のFDネットワーク(T-SPOD)加盟校の教育力向上のために、各加盟校において取り組まれている「学生、または教員間で高い評価を受けた授業の実践」について、実践報告及び情報共有・意見交換を行うものである。これによって、さらなるT-SPOD加盟校の教育力向上、連携強化を期待したい。

## 1. 継続的自律英語学習を目指した英語授業の実践

(徳島大学国際センター 坂田 浩)

今回発表する実践は、教師が英語を教えるのではなく、学生自身が英語を学ぶための手助けを教師が行うことを中心としたものである。今回の実践における大きな特徴は、教師が自律学習を指導・支援するための教材を作成し、その教材に基づき授業を展開している点にある。自律学習＝「学生に自由にさせる。」というイメージがあるかもしれないが、本授業では、1学期の授業を3つのフェーズに分け、(1)自律学習のポイントを教師が教材を使って指導する第1フェーズ、

のフレーズは以下のように表すことができる。

現状における大学での英語授業を見てみると、多くの場合、週1回90分(合計15週間)となっていることから、本授業で使用する教材も15セッションに分れている。各フェーズでの授業概要、ならびにテキストの内容は以下のとおりである。

【Phase 1】自律学習に必要なスキルを学ぶ

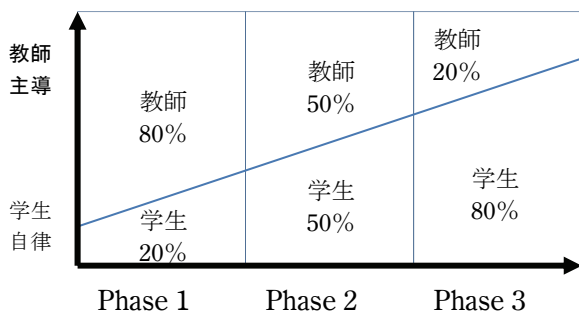
- Session 01: イントロダクション
- Session 02: 将来像を考える
- Session 03: 学習目標を立てる
- Session 04: 時間・エネルギー配分を考える
- Session 05: 学習内容を考える

【Phase 2】自律学習を実践する

- Session 06: Weekly Exercise 01
- Session 07: Weekly Exercise 02
- Session 08: Weekly Exercise 03 & 自己評価と学習管理
- Session 09: Weekly Exercise 04
- Session 10: Weekly Exercise 05

【Phase 3】授業後の英語学習を考える

- Session 11: Design Your Learning (1)
- Session 12: Design Your Learning (2)
- Session 13: Design Your Learning (3)
- Session 14: Design Your Learning (4)
- Session 15: 今期の学習に関する振り返りと今後の学習について考える



(2) 学生が学習を設計・実践し、他の学習者とともに自律学習を実践する第二フェーズ、(3) 授業終了後の英語事実学習のあり方について他の学習者と共にの方法について考える第3フェーズ、という形で徐々に学習者が自らの力で学習を設計・管理できるよう授業全体のシラバスを設計している。学習者の自律性、教員側のコントロールという二つの側面から見てみると、上記3つ

具体的な内容・活動などについては、発表時に説明を行うように考えている。

## 2. 絵本の読み聞かせを教員養成に

(鳴門教育大学人文・社会系教育部言語系コース  
(国語) 余郷裕次)

私は、絵本の読み聞かせを内容の一部とした「初等国語」の授業を展開している。そのシラバスは、次のようになっている。

### 1. 絵本の教材的価値について学ぶ (第1～5週)

- ①『にゃーご』の教材的価値
- ②『りんごがたべたいねずみくん』の教材的価値
- ③『かいじゅうたちのいるところ』の教材的価値
- ④『11ぴきのねことあほうどり』の教材的価値
- ⑤『モチモチの木』の教材的価値

毎週、絵本を取り上げ、絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果とを講義し、4人グループで絵本の読み聞かせの練習をさせている。さらに、グループごとに絵本についてその仕掛け(まるい大きな正面顔、画面配置、色彩、絵本モンタージュなど)を分析させ、気づきや発見を発表させている。

教員養成の授業に絵本とその読み聞かせを導入する理由は、絵本が、小学生や中学生も充分楽しめる芸術作品であり、その読み聞かせが、子どもたちの傾聴的な態度を形成し、子どもたちのイライラ感や衝動性を抑える効果があるからである。また、読み聞かせによって、アイコンタクトや発声・発音など口頭表現によるパフォーマンス力やコミュニケーション能力の育成もねらっている。さらに、メディアリテラシーの面から見ると、テレビやインターネットなど、ことばと映像とをミックスしたメディアの仕掛けと効果とについて講義するのに絵本が優れた教材だからである。

また、授業者が大学生に絵本を読み聞かせ、絵本の分析を試みさせたり、絵本の読み聞かせを実践させることで、大学生自身の授業に対する傾聴的態度や受講生の一体感を形成するとともに、将来、小学校や中学校において読み聞かせを実践するための知識と技能を身につけさせたいと考えている。

## 3. 阿南高専国語教育実践例

～POPを用いた本の紹介発表～

(阿南工業高等専門学校創造技術工学科

錦織浩文)

阿南高専国語の授業では、読書習慣の定着化を図り、授業の冒頭10分ほどを「読書の時間」とし、いわゆる授業内読書を取り入れている。この取り組みの総括として1年間に読んだ本の中で最もよかった本を紹介する機会を設けている。当初は口頭のみで行っていたが、書名が伝わりにくいので、A3用紙を用いてPOPを作成し、それを提示しながら発表させることにした。

発表方法、及び評価方法は、ビブリオバトルの方法を援用した。発表時には、まず、1班6、7名に分ける。1人2分の持ち時間とし、POPを聞き手に見えるように掲げて本の紹介を行い、意見交換を行う。全ての発表が終了した後に、「どの発表がよかったか」(POPの出来を含む)を基準とした投票を参加全員一票で行い、最多票を集めたものを「グループ代表」とする。次に、グループ代表のPOPを集め、スキャナで読み込み、プロジェクタで映写する。これに合わせてグループ代表が順次登壇して発表する。全ての発表が終了した後に、「どの発表がよかったか」(POPの出来を含む)を基準とした投票をクラス全員一票で行い、最多票を集めたものを「最優秀」とする。

学生アンケートの結果から見て、POPを用いる本の紹介発表は読書啓発活動として効果的であると理解される。その教育的効果をまとめると次のようになろう。

- ①POPを作成する際に本を読み返すことになる
- ②POPを作成する際にどこを強調するかを考えることになる(本の本質的部分を捉えようとする)
- ③発表がプレゼンの練習につながる
- ④他の人のおすすめの本を知る機会が得られる
- ⑤発表後、意見交換を行う機会が得られる

提出されたPOPには力作が多い。多くの目に触れる価値があると考え、提出されたPOPを縮小カラーコピーし、図書館でも使用してもらうことにした。こうした取り組みにつながる点にも本授業の意義を認めることができよう。